

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月31日

【評価実施概要】

事業所番号	0170502769		
法人名	株式会社 じょうてつケアサービス		
事業所名	グループホーム 菜の花清田館		
所在地	札幌市清田区清田6条1丁目11番15号 (電話) 011-884-1373		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年7月25日	評価確定日	平成20年8月19日

【情報提供票より】 (20年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	14人 非常勤 1人 常勤換算 6.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000円	その他の経費(月額)	52,000 円
		暖房費(11月～3月)	6,000 円
敷金	有(116,000円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,300 円	

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	0名	要介護2	6名		
要介護3	3名	要介護4	8名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.7歳	最低	74歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	札幌緑愛病院 こじま歯科クリニック もなみクリニック
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営法人が7箇所のグループホームを運営し、統一されたケア理念とホーム理念を作成している。職員教育が充実し、新人研修を始め、運営法人主催の勉強会が2カ月に1度開催されている。地域との連携や交流が日常的に頻繁にあり、利用者と職員の楽しみとなっている。地域住民によるボランティアの受け入れや運営推進会議でミニ学習会を開催し、認知症についての学びなどをし、ホームとしての資源還元に努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前は、3点ほどの取り組みが期待され、いずれも全職員で改善に向けて積極的に取り組まれ、課題については改善されている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員は自己評価の各項目について吟味し、課題を見つけて検討している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の開催を重ねることで町内会との連携が良好となり、町内の行事に利用者が参加するようになった。また、出席した家族から様々な意見をいただき、ホーム運営の参考になっている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族などの意見や不満はささいな事でも、ホーム全体で取り上げ、改善に向けて検討している。アンケートボックスを設置して、意見を求めている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、利用者と職員は町内の様々な行事に可能な限り参加している。畑作業に地域の住民の協力をいただいている。また、近くの教会の喫茶店に出かけて、地域の方々と交流がある。地域の中にホームは溶け込んでおり、災害時の連絡体制が出来ている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営法人が地域密着型サービスの意義を含めたホーム理念とケア理念を掲示し、利用者の暮らしを支える理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、各自のネームプレートの裏面に理念を記載し、日常的に確認と実践への取り組みをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、利用者と職員は町内の様々な行事に可能な限り参加している。近くにある教会で毎週開かれる喫茶店に利用者は出かけて、地域の方々と交流をもっている。さらに、ボランティアの受け入れもしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組みホームの課題を見つけて改善に向けて話し合いをしている。外部評価に期待を持ち具体的な取り組みを開始するようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を重ねることで町内会との連携が良好となり、町内会の行事の参加が増加した。また、家族の方々からいただく意見を運営に活かした取り組みをしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政から指導と助言をいただき、より良い質の向上を目指して、信頼されるホーム作りに取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月利用者の様子やホームのことがわかる写真入りの「菜の花たより」を発行し、さらに一人ひとりの詳しいお便りをつけ、金銭の報告も添えて家族に知らせている。また、面会時には受診状況なども話している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族などの意見や不満はささいなことでも、ホームで取り上げ改善に向けて職員が検討している。アンケートボックスを設置して意見を求めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	出来る限り職員の交替は避けるようにしているが、止む得ない場合は、利用者に影響しないように職員同士が配慮している。新しい職員は、早く馴染みになるように努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営法人の教育課が職員研修の年間計画に基づいて、それぞれの分野で研修を実施している。ホームとしても2ヵ月に1度、テーマを決めて研修をしている。さらに、外部の研修にも機会あるごとに出席をし、職員の質の向上を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区内のほかのホームとは定期的な会議のみならず、交流会も実施し、利用者もほかのホームと親睦の場をもっている。日常的な連携も良好である。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者と家族の見学や体験を重視し、十分な話し合いをして、人間関係を築き、溶け込むことが出来る様に工夫している。なお、在宅での暮らしぶりも職員は拝見し、参考になっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者は、同等の立場でともに生活する仲間として、喜怒哀楽をともにしている。利用者に教えられる点も多くある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりに寄り添い、思いを把握して利用者本位に支援している。また、家族からの意向も受け止めて支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニット毎に毎月会議を開催し、利用者の介護計画を共有してチームでケアに当たっている。気づきを自由に話し合い、日々の状況を判断して、より良い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月で見直しをするが、現状に合っているか否か、検討し、日々の記録を参考にしながら、利用者や家族の要望を受け入れる介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者一律の支援でなく、利用者一人ひとりの希望や家族状況に応じた外出支援など、ホームとして出来る限りの努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医については家族と相談し、納得が得られた医療機関を受診するように支援している。受診結果は電話などで連絡し、また面会時には詳しく知らせている。さらに、看護師が常勤しており、医療機関との連携が良好である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の契約時に「重度化した場合の対応指針」に同意をいただき、具体的には病状により家族と話し合いをする体制になっている。職員は日々研鑽を積んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりのプライバシーを損ねないように尊敬と敬愛をもって、言葉かけや対応に注意をしている。また、記録の取り扱いなどに配慮がある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性を重んじ、希望やペースを重視して、職員の考えで誘導しないように支援している。食事の時間や入浴などに配慮がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士による献立が中心であるが、材料によっては希望の献立に変更して好みの食事を提供している。介助の必要な利用者には、寄り添い介助をし、言葉かけなどしながら支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせてながら、週2回を目途に気持ちよく、入浴できるように支援している。介護度合の重い利用者には職員が2名でケアしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの中で、家事に対する役割は、出来ること、やりたいこと、してほしいことなど、個別に介護計画に盛り込み、充実感がえられるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な外出は、一人ひとりに対する対応をしているが、ホームとしての行事計画は、屋外で楽しいプログラムを企画し、実施している。年間計画の取り組みは、利用者と家族の楽しみとなり、行事報告書はわかりやすくなっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は外の玄関は施錠していないが、開閉時はチャイムが鳴って把握できるようになっている。職員は常に、利用者の居場所を確認し、安全にケアしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を実施し、地域の方々の協力が得られるように連絡網が整備されている。併設のデイサービスと合同の訓練はしていない。	○	同じ建物にあるデイサービスセンターと合同の訓練を実施し、相互に連携がとれる体制づくりが求められる。また、記録のファイルにマニュアルと実施報告は分離する検討を期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	運営法人の栄養士が献立を作成し、バランスの良い食事を提供している。水分量や摂取量の把握は適宜されている。介護度合によって、個別の支援が行き届いている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所は、利用者にとって馴染みになり食卓とテレビを見る所は別にあり、明るく開放的で、居心地よく過ごしている。浴室やトイレも使いやすい位置にある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	収納スペースがある居室は、利用者の使い慣れたベッドや家具などを持ち込み、その人なりの落ち着いた居場所になっている。個性を重んじて興味のある品を配置している。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。